

活用について

I. 心の準備状態を確認しましょう(P4-5)

- ・本人への侵襲を軽減する意味で心の準備ができているかを確認することは重要です。心の準備ができていれば、話し合いを始めましょう。
- ・いきなり、心肺蘇生や看取りについて話すのは控えた方がよいでしょう。
- ・一度に全部を聞きだそうとせずに、本人の反応に合わせて複数回に分けるとよいでしょう。

1 本人の病状認識の確認:「本人の言葉で表現」してもらいましょう。

- ・医療者が丁寧に説明していたとしても、本人がそのまま理解しているとは限りません。医療者の「説明」と本人の「理解」のズレがないか、本人の理解を確認するためには「本人の言葉で表現してもらう」ことが大切です。
- ・本人にも、自分の言葉で説明する意義を説明した上で、自分の病名・病状、予測される経過などを表現してもらいましょう。

2 本人の今の気持ちを確認しましょう

P5. 質問 3「今までに病状が進行して動けなくなった時のことを考えたことがありますか？」のような言葉を使って話を切り出します。コツは、経験を尋ねることです。

①「考えたことがある」と答えた場合

- ・気持ちを聞かせていただいても良いかので了承を得て、どんな時にどのようなことを考えたのかを尋ねましょう。そして、今後のことについての話し合いをしたい旨を伝えて、話を進める許可を得ましょう。

②「考えたことがない」と答えた場合

- ・心の準備ができていないと考えられます。話し合いを続けることに本人が抵抗を感じている場合は、別のタイミングを見計らいましょう。

③怒りや不安などの感情が表現された場合

- ・感情への対応を優先させましょう。感情の裏には、本人が本当に対峙すべき想いが存在する可能性があります。本人が自分の真のニーズに気づくことができるように、傾聴・共感の姿勢で感情表出を促し、まずは感情への対応をしましょう。感情への対応をきちんとしておくことが、今後のコミュニケーションにおいて重要になります。⁽⁵⁾

脚注 (5) 日本がん看護学会監修 (2015), 患者の感情表出を促す NURSE を用いたコミュニケーション

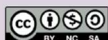
3 本人に病名や病状が十分に説明されていない場合、または家族等との説明が違う場合 (図6)

- ・病名や病状が正確に説明されていなくても、将来の「もしもの時」という仮定を用いて、本人が今の身体の状態をどのように認識されているか、気持ちや考えを尋ねることはできます。
- ・改めて、本人の認識の確認と、病状をどの程度知りたいと思っているのかを尋ねる機会ととらえてもよいでしょう。
- ・何らかの事情(家族の意向など)で説明できていない場合には、説明しないことによるリスクを家族等に理解してもらうことも一つの方法です。

図6:患者との話し合いの手引き⁽⁶⁾

患者との話し合いの手引き Serious Illness Conversation Guide	
話し合いの流れ	患者に対する話し方の例
01 話し合いを始める ・目的を伝える ・将来の意思決定のための準備 ・許可を求める	「あなたが望む医療やケアを受けて、安心して過ごせるように、今後あなたのお身体の状態がどうなっていくかや、あなたにとってどんなことが重要かについて、一緒にお話ししていきたいと思うのですが、よろしいでしょうか？」
02 患者の理解と意向を確認する	「ご自分の病状についてどのように捉えておられていますか？」 「今後、病気がどうなっていくかについて、どの程度お知りになりたいですか？」
03 今後の見通しを共有する ・「…だとよいのですが、…を心配しています」「…を願っていますが、…を心配しています」などの表現を使う ・間を置きながら話し、感情を探る	「あなたの病状について、私が理解している範囲でお伝えしたいと思います…」 不確実性:「あなたの病気が今後どのように進行するか予測する事は難しいと思います。できるだけ長く、病気が進行せずに元気で過ごしていただきたいと思っています。同時に、病状が急に悪くなる可能性もあり、そのことを(とても)心配しています。そのもしもの時に備えておくことが大事だと思うのです。」 または、 時間的予後:「そうでないといのですが、残された時間が、____(例:日単位~週単位、週単位~月単位、月単位~年単位の期間で示す)くらいになってきている可能性があることを心配しています。」 または、 機能的予後:「大変申し上げにくいのですが、あなたが感じているより病状は差し迫っているのではないかと思います。そして、今後、もう少し難しい状況になる可能性があることをとても心配しています。」
04 大切な事について聴く ・目標 ・恐れや不安 ・支えになるもの ・欠かせない能力 ・延命治療の範囲(トレード・オフ) ・家族	「万が一病状が更に進んだ場合のことを考えたいと思います。病状が進んだ場合、どんなことが一番大切ですか？」 「今後の病状に関して、一番不安に思っていることは何ですか？どんなことが心配ですか？」 「これから病状と付き合っていく上で、どのようなことがあなたの支えになると思われますか？」 「あなたにとってとても大切で、これができなくなったら自分らしく生きていけると感じられない、と思うのはどんなことですか？」 (例:口から食べられること、身の周りのことが自分でできること、家族とコミュニケーションが取れること、など) 「病状が更に進んだ場合、余命を伸ばすためならどの程度の治療であれば、たとえつらくてもやっていきたいと思いませんか？」 「ご家族は、あなたのご希望や大切にしたいことについてどのくらいご存じですか？」
05 話し合いを締めくくる ・要約する ・推奨事項を説明する ・患者に確認する ・患者に協力することを伝える	「あなたにとって____がとても大切だとおっしゃいましたね。それを考慮に入れると、現在の病状では____をお勧めします。」 「こうすれば、あなたが大切にしたい事を今後の治療の方針に反映できると思っています。」 「この方針をどう思われますか？」 「あなたの力になれるように、私も全力でお手伝いいたします。」
06 話し合いの内容を記録する	

This Japanese Version has been translated by Yoshiyuki Kizawa MD, PhD, FJSM, DSBPMJ, University of Tsukuba and Sayaka Takenouchi RN, PhD, MPH, Kyoto University, and Masanori Mori, MD, Seirei Mikatahara General Hospital with the permission of the copyright holder.



© 2015-2017 Ariadne Labs: A Joint Center for Health Systems Innovation (www.ariadnelabs.org) between Brigham and Women's Hospital and the Harvard T.H. Chan School of Public Health, in collaboration with Dana-Farber Cancer Institute. Licensed under the Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License, <http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/>

SI-CG 2017-04-18

ARIADNE LABS

脚注 (6) ©2015-2017 Ariadne Labs: A Joint Center for Health Systems Innovation (www.ariadnelabs.org) between Brigham and Women's Hospital and the Harvard T.H. Chan School of Public Health, In collaboration with Dana-Farber Cancer Institute